

研修の流れ

◇第1次～3次研修

■第1次研修：6月13日（土）～14日（日）

授業実践において役立つ参加型学習について学びました。

■第2次研修：6月28日（日） **都県別で実施**

帰国後の授業実践をより実りあるものにするために、海外研修における目的を再確認しました。

■第3次研修：8月2日（日）

出発前の最終確認をしました。

さあ、いよいよ研修国に向けて出発です！



◇海外研修

8月3日～12日（10日間）詳細は5～7ページを参照ください。

研修国の現状を実際に自分の目で見て肌で感じ、様々なことを考えました。



◇帰国時研修

8月23日（日）

海外研修で得られた資料を活用する授業について考えました。

◇各校での授業実践

9月～12月

研修で得られた経験、資料を活かし、参加者がそれぞれ授業を実践しました。



◇授業実践報告会

■都県別授業実践報告会：1～2月 **都県別で実施**

研修で得られた経験、資料を活かして実践した授業について報告しました。

■全体成果報告会：3月7日（日）

1年間の研修を振り返り、次年度への展望を参加者全体で考えました。本研修の総決算です。

海外研修日程

研修テーマ：経済成長と格差

| 月日 | 曜日 | 時間 | 内 容 | ねらい | 場 所 |
|-------|----|------------------|---|---|----------------|
| 8月3日 | 月 | | →成田発→北京 | | 北京 |
| 8月4日 | 火 | 午前 | →北京→ウランバートル | | ウランバートル |
| | | 午後 | 【JICA 事務所】ブリーフィング | JICA 事業全般の概要把握 滞在ブリーフィング・留意点など | |
| 8月5日 | 水 | 午前 | 【博物館見学】民族歴史博物館 | モンゴルの歴史、文化の学習 | ウランバートル |
| | | 午後 | 【青年海外協力隊、シニア海外ボランティア】 セトゲムジ統合学校 | 校長から学校の概要説明 JICA ボランティア：理数科教師、 小学校教諭〔現職参加教諭〕との 意見交換 | |
| | | | 【教育ブリーフィング】教育文化科学省 | 技術協力プロジェクト 「子どもの発達を支援する指導法 改善プロジェクト」の概要から教育 事情を理解する | |
| 8月6日 | 木 | 午前 | ウランバートル市→ボルガン県ボルガン | | ボルガン |
| | | 午後 | 【草の根技術協力・保健医療】 ボルガン県保健局、家族病院、近隣の 家庭訪問 | 地方における保健医療の課題 「ボルガン県ボルガン市第3地区 における母と子のための地域ぐる み健康まちづくりプロジェクト」 の視察 | |
| 8月7日 | 金 | 午前 | 【中間振り返りミーティング】 | 研修前半及び全体の振り返り・整理 | ウランバートル |
| | | 午後 | 【技術協力プロジェクト】 複合農牧業経営モデル構築支援プロ ジェクト | プロジェクト対象の農家訪問 | ウランバートル 郊外 |
| 8月8日 | 土 | 午前 | ウランバートル→中央県アルタンボラグ | | 中央県 アルタンボラグ |
| | | 午後 | 【ホームステイ】遊牧民のゲル | 遊牧民の生活、文化体験 | |
| 8月9日 | 日 | | 中央県アルタンボラグ→ウランバートル | | |
| 8月10日 | 月 | 午前 | 【青年海外協力隊】 国立孤児院夏期キャンプ場 | 教育現場での交流授業 | ウランバートル |
| | | 午後 | 【有償資金協力・シニア海外ボランティア】 第4火力発電所 | JICA 事業・JICA ボランティアの 活動電力供給の課題と対策 | |
| 8月11日 | 火 | 午前 | 【市内視察】 ゲル地区、ガンダン寺、市場 | 写真などの教材入手 | ウランバートル |
| | | 午後 | 【振り返りミーティング】 | プログラム全体の振り返り、意見 交換 | |
| | | | 【JICA 事務所】研修報告 | 事務所への研修報告 | |
| | | 【市内視察】開発教育関連教材収集 | 生活用品などの教材入手 | | |
| 8月12日 | 水 | | →ウランバートル→成田着 | | |

海外研修トピックス

◇セトゲムジ統合学校

モンゴルの教育現場の理解を図るために学校を視察し青年海外協力隊員を交え現地教員と意見交換を行いました。

【参加者の感想】

*「学習することは夢を叶え、国を良くすることにつながる」という教育に対する熱い思いを聞いて感銘を受け、私自身の日々の教育活動について考えさせられた。



◇教育文化科学省ミーティング

JICA 技術協力プロジェクト「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト」担当者とミーティングを行いました。

【参加者の感想】

*「今モンゴルに必要なのは、一つのことに対して自分の考えだけでなく他の意見も受け入れていく力である」という言葉に共感を覚えた。私も常に視野を広く持っていたい。



◇ボルガン県保険局－家族病院－ボランティアヘルスワーカーによる家庭訪問同行

草の根技術協力「ボルガン県ボルガン市第3地区における「母と子のための」地域ぐるみ健康まちづくりプロジェクト」担当者からブリーフィングを受けた後、家族病院を視察し近隣の家庭を訪問しました。

【参加者の感想】

* 医師や看護師の方々の専門家としての熱意と誇りを感じた。
また、モンゴル人のボランティアヘルスワーカーと各家庭の温かい信頼関係にも心を打たれた。



◇ボルガン市内視察・教材収集

地方の町の日常生活に触れて見識を深めるために青年海外協力隊と共にボルガン市内を散策しました。

【参加者の感想】

* 都会とは違う穏やかな雰囲気のものんびりした町だった。
家庭訪問から戻る途中に手を振ると、その家の人だけでなく、近所の子どもたちがみな手を振ってくれて心温まる思いがした。



◇複合農牧業経営モデル構築支援プロジェクト

JICA 技術協力プロジェクト「複合農牧業経営モデル構築支援プロジェクト」のサイトを視察しました。

【参加者の感想】

*家畜を育てながら野菜も育てることはモンゴルではまだ珍しいようだが、現地のモンゴル人にとって、より良い方法を選択し少しでもプロジェクトが活きたらと思った。



◇ゲル（遊牧民のテント型住居）ホームステイ

モンゴルの遊牧生活や文化を体験するため、遊牧民のゲルにホームステイしました。

【参加者の感想】

*必要最小限の物だけを持ち移動するゲル生活ということで、様々な物を無駄なく使う様子や、いろいろな物がある物から作り出していることに感動した。そこに外から入ってきた私達がゴミを持ち込んでいる現状に考えさせられた。



◇国立孤児院夏季キャンプ場

国立孤児院夏期キャンプ場と青年海外協力隊の活動を視察し子どもたちと交流を行いました。

【参加者の感想】

*「子どもたちにとって本当に必要な支援は物ではなく愛情」という話を聞き心が痛んだ。支援はただすればいいだけではないと気づき、国際協力の難しさを実感した。



◇第四火力発電所

第四火力発電所を視察しシニア海外ボランティアと交流し電力供給の課題と対策について伺いました。

【参加者の感想】

*教師として教育分野での国際協力に目がいきがちなか中、「電気」という人々の生活に直結する分野でも日本が大いに貢献していることに日本人としての誇りを感じ、こうした感情を生徒たちにも伝えていきたいと思った。



◇ウランバートル市内（ゲル地区・ガンダン寺・市場）

都市の日常生活に触れ、地方との差を考え見識を深めるためにウランバートル市内を散策しました。

【参加者の感想】

*ゲル地区では、冬の寒さに耐えるために多くの人々が「ゲル」から「家」に住み替えたため一般的な家が多かった。近代化と伝統的な生活様式の衝突を見た気がした。



モンゴル情報

| | |
|----------|--|
| (1) 正式名称 | (和文) モンゴル国 (英文) Mongolia |
| (2) 政 体 | 民主制 |
| (3) 首 都 | ウランバートル市 |
| (4) 人 口 | 263万5200人(2007年統計年鑑) |
| (5) 民 族 | モンゴル人95%、ほかカザフ人など |
| (6) 言 語 | 公用語：モンゴル語 |
| (7) 宗 教 | チベット仏教(ラマ教) |
| (8) 略 史 | 13世紀チンギス・ハーンがモンゴル帝国建国。17～19世紀は中国(清朝)の支配を受ける。1911年辛亥革命により清朝から分離、自治政府を樹立。1921年モンゴル革命により活仏を元首とする君主人民政府成立。人民革命で独立。1961年国連に加盟。1990年複数政党制を導入し、さらに大統領制が導入され、議会主義への転換を行った。 |
| (9) 気 候 | 大陸性気候で年間を通じ雨量が少なく、乾燥している。最も寒いのは1月で全国平均気温摂氏15～33度、最も暑い時期は7月で、同17～28度。 |
| (10) 通 貨 | トゥグリグ(Tg または MNT) |



【参考】「JICA HP - 国別生活情報」国際協力機構、「外務省 HP - 各国・地域情勢」外務省

